神奈川県

You can do it !

表彰制度 かながわみんなのSDGs

令和7年度 受賞パートナー

県では、SDGsの取組拡大を後押しするため、
かながわSDGsパートナーからSDGsに関連する取組を募集しました。
４回目となる今回は、45の企業・団体等から58事例が集まり、
特にこれから取組を始めたい企業・団体等の参考になる６事例を表彰しました。

■みんなのSDGs賞 ：2者
取り組みやすい事例をパートナー等による投票にて選定

■神奈川県中小企業診断協会賞 ：2者
神奈川県中小企業診断協会が、
中小企業診断士の知見から社会課題への貢献度を評価を行い選定

■みんなのSDGs連携賞 ：2者
２者以上のかながわSDGsパートナーが連携して実施した取組について、
有識者等による審査会での評価を行い選定

かながわSDGsパートナーが行うSDGsに向けた取組のうち、次の視点に一つでも該当する取組を募集します。

取組の視点
1. ぴぴっとくる
2. 実施効果
3. 取り組みやすさ
4. 費用・労力
5. 継続性

かながわSDGsパートナーとは

SDGsの取組等を実施している企業・団体等を「かながわSDGsパートナー」として登録し、パートナー間の連携を本県が後押しすることで、県内のSDGsに関する取組や事業を促進します。令和８年3月末現在、1,600者を超える企業・団体が登録しています。

メリット

- ■「かながわSDGsパートナーミーティング」等を通じたパートナー間のマッチング支援
- ■本県による対外的な広報・PR（本県ホームページへの掲載・ロゴ使用可）
- ■本県の中小企業制度融資による支援
- ■中小企業者のSDGs経営に向けた取組支援
- ■神奈川県中小企業診断協会所属の中小企業診断士によるSDGsの取組の伴走支援

かながわ
SDGsパートナー

私たち一人ひとりの行動が、
未来につながる。
SDGs 未来都市　神奈川県

みんなのSDGs連携賞 ❶　株式会社 BPLab × 一般社団法人 F･マリノススポーツクラブ

1 タイトル

不要な衣料品回収イベント

2 取組を始めた動機・課題

- 2023年、**かながわSDGsパートナーミーティングにて出会い**、不要になった衣料品を再利用・再資源化する取組を連携して行った。
- 横浜F･マリノスが日産スタジアムのホームゲームにて衣料品を回収。回収した衣料品をBPLabがリユースし、リユースできないものは繊維の種類ごとに分けて、横浜F･マリノスが新たな衣料品や雑貨に生まれ変わらせた。

3 動機・課題

- ユニフォームなど思い出があるが、不要になったものを捨てるのではなく、循環させて新しい形に変えられればという**ファン、サポーターの思いを形にし、ともに衣料品廃棄の社会問題を解決するために始めた**。

4 解決に向けた具体策・成果

- 回収した衣料品を再資源化して、そこからの原料を使った新たな衣料品や雑貨を作り、販売。
- 今では**横浜F･マリノスの公式グッズとして提供**。

5 取組による定量的な効果

- 半年間で、衣料品 約600kgの回収をしてリサイクル。

6 取組のポイント

- 衣料品廃棄の社会課題を、スポーツの応援を通して、衣料品回収→循環商品購買によって解決をする取組。

みんなのSDGs連携賞 ❷　特定非営利活動法人 フェアスタートサポート × 有限会社グリーンフーズあつみ

1 タイトル

児童養護施設の子ども達へキャリア教育の機会を提供

2 取組の概要

- 児童養護施設で生活をしている高校生2名に質の高いキャリア教育の機会を提供した。
- 児童養護施設の子ども達にキャリア教育の機会を提供できるフェアスタートサポートと、子ども達の職場見学受入れ等を積極的に担っているグリーンフーズあつみの連携により実現。

3 取組を始めた動機・課題

- 児童養護施設出身者達は、施設で生活をしている頃に**キャリア教育の機会が不足**していることなどが理由で、質の低い就職活動に陥りやすく、結果的に**ミスマッチによる早期離職が多発**。
- 離職を機にワーキングプアとなりやすく、貴重な**若者達に貧困の連鎖が起きている**。

4 解決に向けた具体策・成果

- 小中高生の頃に様々な職業に触れることで視野が広がり、はたらくイメージも具体化し、進路選択の質が高まる。

5 取組による定量的な効果

- **キャリア教育に恵まれた子ども達は早期離職率が低下する**。当団体の実績:就職後1年内離職率19%（業界平均値43%）

6 取組のポイント

- **連携を通じて、どのような社会課題を解決し、地域や次世代に貢献したいのかを双方合意しておくことが大切**。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

問合せ先：神奈川県いのち・未来戦略本部室 SDGs 推進グループ
TEL：045-285-0909

みんなのSDGs賞 ❶ 特定非営利活動法人 AYA

[企業規模] NPO
[業 種] 福祉
[地 域] 県内全域

1 タイトル

だれもが楽しめる社会へ
― 病気や障がいのある子どもたちに体験の輪を広げる ―

2 取組の概要

- 「病気や障がいがあることを理由に、文化的・社会的体験をあきらめなくてよい社会の実現」を目指し、スポーツ・芸術・文化の各領域で、子どもたちとそのご家族に向けた体験型イベントを開催。
- 映画上映会、スポーツ観戦会、音楽鑑賞会、プラネタリウム鑑賞会など、**誰もが参加できるインクルーシブな社会づくり**を推進している。

3 取組を始めた動機・課題

- 病気や障がいのある子どもが直面する「体験格差」は深刻だと認識している。
- 事業者は豊かな体験を届けたいが、医療知見の不足から受入に踏み出せない。
- 運営ノウハウにAYAの医療安全の専門性を付与し、**当事者と事業者が安心して楽しめる仕組みを共創する**ことで、病気・障がいを理由に体験をあきらめない社会を実現する。

4 解決に向けた具体策・成果

- 医療的ケアへの対応、家族全員での参加設計、専門職の帯同、安全・安心への配慮といったAYA独自の体制を組み込み、**誰もが安心して楽しめる「体験機会」**を創出。

5 取組による定量的な効果

- [来場者数]2023年度延べ312人
  →2024年度延べ1,334人**(1,022人増加)**
- [ボランティア数]2023年度延べ61人
  →2024年度延べ227人**(166人増加)**

6 取組のポイント

- 神奈川県・市・教育委員会の後援のもと、**企業・ボランティアとの連携により、持続可能な共創モデルを構築。**

みんなのSDGs賞 ❷ 有限会社 津田製作所

[企業規模] 中小企業
[業 種] 製造業
[地 域] 県西地域

1 タイトル

作る技術から、治す技術へ

2 取組の概要

- プリント基板の製造を長年続ける中で、メーカーのサービス終了や老朽化により困っているお客様の声に応え、5年ほど前にメンテナンス事業を立ち上げた。
- 今では売上の半分を占める事業となり、廃棄されるはずだった**基板を修理・再生することで、資源保護と廃棄物削減に貢献**している。

3 取組を始めた動機・課題

- 基板の老朽化により、製品の維持が困難になるお客様の声が増加。実は**"作るだけでなく、治す力も持っていた"**技術者たちの知見を活かし、メンテナンス事業を立ち上げた。
- 技術者の技術力は十分に備わっていたが、社内体制や設備面に課題があり、補助金などを活用して測定器を導入したり、修理体制の強化に取り組んだ。

4 解決に向けた具体策・成果

- 技術者の知見を活かし、精度の高い診断と修理を実現した。
- **廃棄予定だった基板の延命を可能にし、現在ではメンテナンス事業が全社売上の約半分を占めている。**

5 取組による定量的な効果

- [従業員数]2020年4月49名
  →2025年4月67名**(18名増員)**
- [売上]2020年約3.7千万円
  →2025年約6.3千万円**(170%UP)**

6 取組のポイント

- "作る技術"から"治す技術"への転換。
  製造中心だった体制を見直し、技術者の力を活かして修理・再生にシフト。

神奈川県 中小企業診断協会賞 ❶ 東京中央食品 株式会社

[企業規模] 中小企業
[業 種] 業務用食品卸
[地 域] 県内全域

1 タイトル

食品配送から始めるSDGs

2 取組の概要

- 配送コンテナに使用していたプラスチック袋を**お客様の協力を得て全量廃止**。強アルカリ電解水による洗浄で衛生面を担保。
- 保冷方法をドライアイスから、使い回し可能な**高機能保冷剤に変更**し、配送品質を上げつつ自社排出の温室効果ガス削減を実現。

3 取組を始めた動機・課題

- 総合食品卸として、毎日約100台の車で顧客に食を提供しており、衛生的な配送の為のプラスチック袋、保冷の為のドライアイスを創業以来、当たり前のように使用してきた。
- その環境負荷の大きさに気づき、**配送品質は落とさずにSDGsに資する新たな手法の構築**に向け、試行錯誤を繰り返した。

4 解決に向けた具体策・成果

- プラスチック袋廃止後も衛生的な配送を行う為、自社工場で生成する安心・安全な強アルカリ電解水での洗浄を取り入れた。
- ドライアイス以上の効果の保冷剤を発見。食品冷凍庫で凍結させる流れを構築し、追加電力等も発生していない。

5 取組による定量的な効果

- [プラスチック袋] 37万枚(約6t)
- [ドライアイス] 216t (※)の削減

※杉の木およそ15,429本分の二酸化炭素年間吸収量に相当。

6 取組のポイント

- 自社の**今までの当たり前に疑問の目を向けてカイゼンする。**
- SDGsは「品質低下」や「我慢」と必ずしもイコールではない。

神奈川県 中小企業診断協会賞 ❷ 株式会社 ネットフィールド

[企業規模] 中小企業
[業 種] 製造業
[地 域] 県央地域

1 タイトル

相模原発・循環型福祉ビジネスプロジェクト
― 環境と福祉と地域がつながるオガチャッカ

2 取組の概要

- 廃ロウソクとおが屑を再利用した着火剤「オガチャッカ」。障がい者就労支援と資源循環を目的とした地域発のアップサイクル製品の開発・製造で**障がい者が社会に貢献できる仕組みと賃金向上の仕組み**をつくった。

3 取組を始めた動機・課題

- 以前から就労支援施設へ商品の製造などを依頼してきたが、障がい者の作業効率の問題等もあり結果的に低い賃金になった。
- また、普段障がい者が行う仕事は単純作業で、内職と近しい賃金で作業していることから、働きがいと収入面を改善したかった。

4 解決に向けた具体策・成果

- オガチャッカを開発し、**障がい者が製造から販売まで担う仕組みを構築**。働きがいと地域循環型の環境配慮型ビジネスを実現した。

5 取組による定量的な効果

- [年間約200kgの廃ロウソク]と[約600リットルのおが屑]を再資源化。
- **売り上げの85%を就労支援施設へ還元。**

6 取組のポイント

- **社会課題の解決は"善意"ではなく"仕組み"で行う。**
- 環境資源の循環と障がい者の働きがいを両立する持続可能なモデル。